日本建築学会九州支部研究報告
第 58 号　2019 年 3 月

天草アーカイブズ所蔵の行政資料を用いた旧牛深市の中央土地区画整理事業の把握

準会員○川嶋梨月*1　正会員　辻原万規彦*2　同　岡本孝美*3

9. 建築歴史・意匠－8. 都市史　建築歴史・意匠
都市計画史　土地区画整理事業　街路事業　金比羅山　天草市立天草アーカイブズ

1. はじめに

地方都市の都市形成に関する研究は、大都市に比べて少ない。また、地方都市の都市計画については、それぞれの都市が置かれた状況が多様であるため、事業を丁寧に把握する必要がある[1)]。一方で、地方都市における市街地の衰退は、立地などの直接的な要因のほかに、都市計画や整備の集積の結果だと考えられている[2)]。

牛深市は、熊本県の天草諸島南部にあった市である。旧牛深市の中心市街地の形成は、旧牛深市が行った土地区画整理事業に由来する。事業の概要は、『図説　天草の歴史』[3)]で紹介されているが、詳細な説明はない。さらに、旧牛深市は、2006 年度の市町村合併により、市史が編纂されないまま、天草市となったため、土地区画整理事業を含む都市計画事業の全貌や事業前後の変化は明らかにされていない。旧牛深市も人口減少に伴う都市縮減が想定されており、今後のあり方を考える上で、都市計画事業を理解することは重要である。

よって、本研究では、旧牛深市の中心市街地を対象とし、都市計画事業の中でも、昭和 40 年度頃～昭和 60 年度頃にかけて行われた牛深都市計画事業中央土地区画整理事業の全容を明らかにする。その際、牛深市史がないなどの理由から、天草市立天草アーカイブズに保存されている行政資料を一次資料として用いる。

なお、紙幅の関係から、年号は和暦のみを記す。

2. 本研究で用いる行政資料の位置付けと内容

これまでの都市計画史の研究では、市史などのある程度まとまった資料を用いた研究が多い。近年では、行政資料を用いた研究[4)、5)]もあるが、市史や既往研究などの基礎資料が十分にあって、事業変遷がある程度わかっている状態であり、行政資料は、策定意図の把握などの発展的研究に用いられている。一方、本研究では、事業変遷を把握する初期段階から行政資料を用いる。また、用いた資料数も他の研究と比べて多い。

天草市立天草アーカイブズが保存する行政資料のうち、旧牛深市都市計画事業に関する簿冊は、昭和 28 年度～昭和 63 年度までの合計 295 冊であった。このうち各種の計画書や議事録などから、事業実施の意図や背景、ある程度の時系列的な把握ができる。その際に、不確かな事項は、工事資料や稟議書などで詳細を確認することができる。また、簿冊内に挟み込まれている各種の図面や写真などから、事業計画の変遷や事業による街並みの変遷を視覚的に把握することができる。さらに、各種の陳情書や簿冊内に参考資料として挟み込まれている新聞記事などを用いることで、事業に対する住民の反応も把握することができる。

合計 295 冊の簿冊の全てを閲覧し、重複する部分を除いて、デジタルカメラで撮影してデジタル化を行なった。本稿は、このうち特に、牛深中央土地区画整理事

表 1　中央土地区画整理事業に関連する簿冊の中で本稿の記述に主に利用した簿冊

番号	簿冊名	作成時部署/課名	編纂年度
1	土地区画整理事業長期計画書	牛深市建設課	昭和 43 年度
2	中央土地区画整理事業　説明会資料	牛深市建設課	昭和 45 年度
3	公共団体区画補助事業　要望調書	牛深市建設課	昭和 45 年度
4	金比羅山整地工事設計書	牛深市建設課	昭和 45 年度
5	土地区画整理事業関係綴	牛深市建設課	昭和 46 年度
6	区画整理文書綴	牛深市建設課	昭和 46 年度
7	牛深中央土地区画整理事業　金比羅山切り取り整地工事施工計画書	牛深市建設課	昭和 48 年度
8	公共施設（道路）管理引継書	牛深市都市計画課	昭和 52 年度
9	牛深都市計画事業　中央土地区画整理事業　記録写真集	牛深市都市計画課	昭和 54 年度
10	牛深都市計画事業　中央土地区画整理事業　事業計画変更書	牛深市都市計画課	昭和 55 年度
11	牛深都市計画事業　中央土地区画整理事業　実施計画書変更経過	牛深市都市計画課	昭和 56 年度
12	土地区画整理事業により設置された公共施設の管理引継書「道路」	牛深市都市計画課	昭和 59 年度
13	土地区画整理事業　審議会関係綴	牛深市都市計画課	昭和 60 年度

Examination of Chuo Land Readjustment Project Process in Ushibuka City Using Adminisrative Documents Owned by Amakusa Archives
KAWASHIMA Natsuki, TSUJIHARA Makihiko and OKAMOTO Takami

業に関連の深い 12 冊の簿冊(表 1)を用いて記述した。なお、各簿冊の引用箇所や出典などは明記していない。

3. 旧牛深市の中央土地区画整理事業の背景

旧牛深市における都市計画事業全体の変遷の概要を表 2 に示す。このうち、中央土地区画整理事業に着目するのは、次のような背景による。

昭和 45 年度前後の旧牛深市中心市街地の土地利用と建物用途の現況図を図 1 に示す。昭和 45 年度前後の旧牛深市中心市街地は、中央に標高 20m、面積 2.0ha の金比羅山という小高い山があり、東側に位置する国道 266 号線に沿って帯状に商店と住居が不規則に密集していた。しかし、天草五橋の開通による交通網の発展により、密集した建物と狭い道路は交通マヒを生み出し、歩行も困難な状態であった。そこで、金比羅山を切り取って宅地とし、土地区画整備事業によって健全な市街地造成と公共施設の整備改善を行うこととなった。これが中央土地区画整理事業である。当時、離島でこのように大規模な計画を実施しているのは牛深だけと言われ、各地の離島からの関心度が強く、この中央土地区画整理事業の進行度が注目されていた。計画では、都市計画道路を根幹として、商業地と住宅地に適した区画街路を適当に配置する共に、児童公園を 1 箇所配置し、将来は 350 戸、人口 2000 人の商業地と住宅地として整備拡充を図ることが目標とされた。また、熊本県最南端の近代漁港都市となること、天草と鹿児島県、長崎県を結ぶ観光都市となることが目指された。

4. 中央土地区画整理事業に関連する街路事業

中央土地区画整理事業に関連する街路には、図 2 のうち、鬼塚牛深港線、真浦古久玉線、中央幹線、中央土地区画整理事業の施行地区内の区画街路がある。浦川岡東線も施行地区内の道路であるが、施行地区内にかかる延長は 10m と短いため、ここでの説明は省く。

昭和 25 年度から始まった都市計画街路事業によって、昭和 43 年度には、真浦古久玉線と県道路木牛深線（鬼塚牛深港線）が結ばれ、曲がりなりにも都市計画街路の環状線ができあがった。しかし、天草五橋の開通による交通網の発展と道路構造令の改正により、昭和 43 年度に都市計画街路事業を計画変更して、真浦古久玉線の幅員を 8m から 12m に変更し、国道 266 号線に結ぶことを決定した。また、国道 266 号線と鬼塚牛深港線は幅員が狭く、紆余曲折している上、民家が密集し、そのままでの改良は難しい状態であった。これを面的に開発することによって、道路網の整備と市街化を計るため、昭和 45 年度に中央幹線（延長 370m、幅員 14m）を新設し、鬼塚牛深港線を幅員 14m から幅員 16m へ拡張することを決定した。この面的開発が、後の中

表 2　旧牛深市の都市計画事業の変遷

年度	事業の概要
昭和 25 年度	5 月、都市計画街路事業に対して建設省の認可
昭和 28 年度	都市計画街路事業に着手
昭和 29 年度	牛深町から牛深市へ
昭和 44 年度	土地区画整理事業長期計画書の中で予定地として定められる
昭和 45 年度	牛深都市計画事業中央土地区画整理事業に関する推進協議会の設置
昭和 46 年度	都市計画決定において施行地区の確定 中央土地区画整理事業施行地区内の調査・設計
昭和 47 年度	建設省から設計の概要への認可が下りる 金比羅山周辺の建物移転と墓地移転に着工
昭和 48 年度	牛深都市計画事業中央土地区画整理事業審議会の設置 金比羅山の切り取り工事に着工 金比羅山周辺の建物移転が完了
昭和 49 年度	施行地区内の建物移転を開始
昭和 51 年度	仮換地指定 金比羅山の切り取り工事と宅地化の完了
昭和 58 年度	中央公園工事に着工 物件移転工事の完了 施行地区内の道路築造工事と管理の引継ぎが完了
昭和 60 年度	牛深都市計画事業中央土地区画整理事業審議会の解散 牛深都市計画事業中央土地区画整理事業の終息
平成 18 年度	牛深市と本渡市ほか 8 町が合併して天草市に

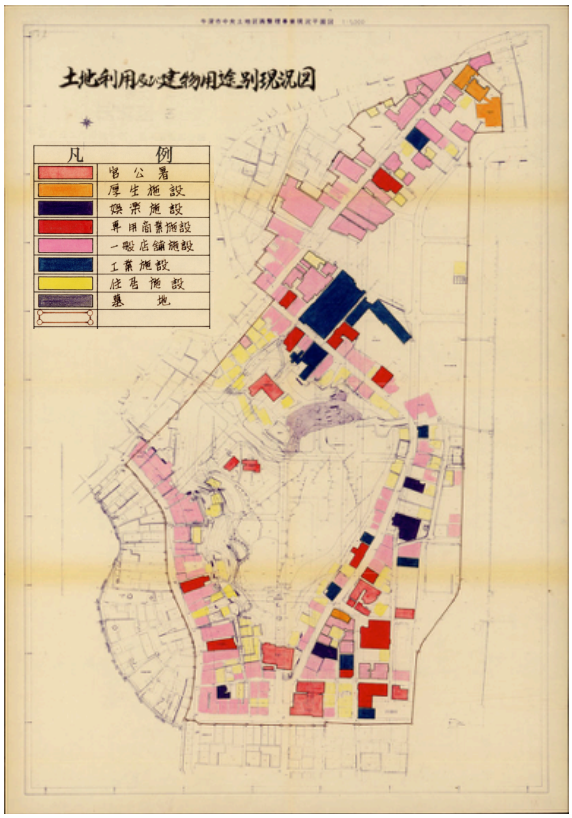

図 1　土地区画整理事業の施行前の現況図（出典表 1 中の 10）

央土地区画整理事業となる。中央土地区画整理事業では、この 3 路線を根幹として幅員 4〜8m の区画道路を配置することになる。

真浦古久玉線の道路築造工事は、昭和 47 年度に終わった。中央幹線と真浦古久玉線の 2 路線は、金比羅山切り取り工事が終わった後、昭和 49 年度に道路築造工事に着工した。中央土地区画整理事業の施行地区内の街路事業については、換地処分の遅れが影響して、予定よりも工事の完成が遅れた。区画街路については、既に、換地処分を終えた住民が生活を始めていたため、全ての区画街路の工事が終わらないまま、昭和 52 年度に一部分の管理が牛深市長へ引き継がれた。さらに、昭和 59 年度には、中央土地区画整理事業の施行地区内におけるすべての道路築造工事が完了し、都市計画道路の管理は、牛深市長から建設省所管国有財産管理部局長と熊本県知事宛に引き継がれた。

5. 中央土地区画整理事業と換地処分

昭和 44 年度に、建設省都市局区画整理課長が熊本県土木部長を通して牛深市長に土地区画整理事業の長期計画策定を通知した。その中で旧牛深市の中心市街地が土地区画整理事業の予定地として計画された。新都市計画法の施行が迫り、都市の整備開発手段として、土地区画整理事業の活用が期待されていた。

昭和 45 年度頃から中心市街地の市街化予想図が作成されたが、事業が進む中で、何回かの変更がなされ、最終的な市街化予想図が作成された（図 3）。最終的な市街化予想図は、現在の中心市街地の状況とほぼ変わらないものであった。公園は 2 箇所から 1 箇所へ変更され、官公署の場所も変更された。

昭和 45 年度に中央土地区画整理事業についての説明会が数回実施された後、昭和 46 年度に調査と設計が始まり、同年度の都市計画決定によって施行範囲が確定された。昭和 47 年度になると金比羅山切り取り工事へ向けて、金比羅山周辺の 15 戸の建物と墓地の移転に着手した。この移転は、市有地の中の建物を別の市有地へ移転するという考え方で、全体的な換地設計の完成よりも前に行われた。墓地は年度内に全ての移転が完了し、昭和 48 年度には、金比羅山周辺の建物移転が完了した。同年度には、土地区画整理法第 56 条に基づいて牛深都市計画事業中央土地区画整理事業審議会が置かれ、第 1 回審議会が開催された。本来はもっと早くに審議会が設置される予定であったが、宇良田牛深市長の逝去などの事情から遅れた。

昭和 49 年度には、施行地区内の建物移転が始まる。昭和 51 年度に地区内の全建物 225 戸が仮換地へと移転完了し、借家人 232 人は、昭和 58 年度に移転が完了した。また、地区内の字地区と名称の変更が行われた。昭和 60 年度には、清算事務を残し、実質的な中央土地区画整理事業の終息となった。

6. 中央土地区画整理事業における金比羅山切り取り工事

中央土地区画整理事業では、施行地区の中央にある標高 20m の金比羅山を切り取ることで、大きな平地を得ることができ、中央幹線の新設と施行地区内のほぼ全ての建物の換地処分が可能となった。よって、金比羅山切り取り工事は、中央土地区画整理事業の大きな特徴と言える。この工事は、単体の工事ではなく、中央

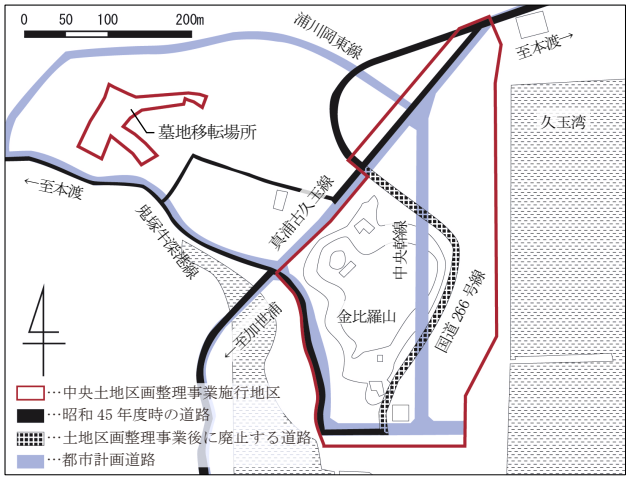

図 2　中央土地区画整理事業施行地区の位置と周辺街路の様子
（表 1 中の 2 を参考に筆者作製）

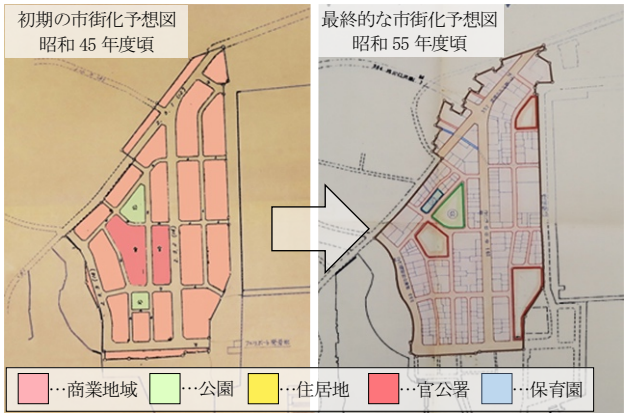

図 3　中心市街地の市街化予想図の変遷（出典：表 1 中の 3 と 10）

土地区画整理事業の一環として捉えられていた。

昭和 48 年度には、民間企業によって、測量と設計が行われ、施行計画書が作成された。落石などによる民家への被害と騒音などの住民への被害への対策が講じられ、慎重に調査と設計が行われた。特徴的であったのは、金比羅山周辺の風の実測調査である。当時、施工主も含めて中心市街地の住民は、金比羅山は市街地での、特に台風時の強風の影響を緩和していると考えていたため、調査が行われた。結果は、金比羅山による強風の緩和はみられなかった。また、金比羅山と周辺建物の影響で、風の収束が起こり、強風を作り出している場所があったため、逆に金比羅山を切り取ったほうが、風の影響が少なくなるという結果であった。

昭和 48 年度に、金比羅山周辺の家屋移転が完了した後、金比羅山切り取り工事が始まった。中央部分から外側へ広がるように施工された。山の土が柔らかいところは、リッパー付ブルドーザーなどを用いて土を押し出すように切り取った。また、地山中心部の土の硬いところは、破砕薬やダイナマイトを用いて削岩した。切り取った土は久玉湾への埋め立てに使われた。工事の初期段階では、道路によって安全に土を運搬できる状態ではなかったため、海上による運搬が採用された。昭和 49 年度には切り取り工事が終わる予定であったのを延長して、昭和 51 年度に完了した。金比羅山切り取り工事が終わった後の航空写真を写真 1 に示す。まだ、金比羅山があった名残が見える。

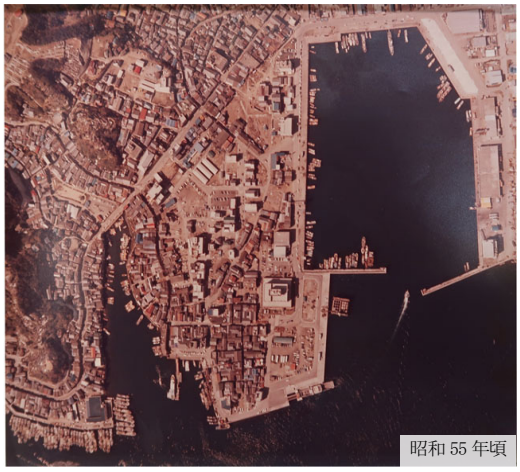

写真 1　金比羅山切り取り後の市街地の様子（出典：表 1 中の 9）

7. 中央土地区画整理事業による街並みの変容

中央土地区画整理事業前後での写真が数多く残されており、写真 2 のように街並みの変容が把握できる。

写真 2 の上段からは、金比羅山を切り取ったことによって、中心市街地全体の景観が、大きく変化したことがわかる。金比羅山がなくなったことによって、牛深は漁港の町という印象が強くなったのではないか。

写真２の下段からは、街路事業により、道路網の利便性や安全性が高まったことがわかる。港からのアクセスも良くなった。施行地区内では、区画街路の設置によって、施行地区内の人の動きは分散されたと考えられる。新設された中央幹線は、後にハイヤ祭りの総踊りの舞台となり、牛深の象徴となる大通りになった。

写真 2　事業前後の街並みの変容（出典：表 1 中の 9）

8. まとめ

本研究では、天草市立天草アーカイブズに保存されている多量の行政資料を用いて、旧牛深市中央土地区画整理事業の変遷を整理した。

今後は、さらに詳細な事業内容の把握が必要である。

謝辞　行政資料を利用するにあたって、天草市立天草アーカイブズの皆様に多大な支援をいただいた。ここに謝意を表す。本研究は平成 30 年度熊本県立大学地域貢献研究事業の援助を受けた。

参考文献

1）出村嘉史：岐阜の初期都市計画における土地区画整理事業、日本建築学会計画系論文集、第 694 号、pp. 2529-2536、2013. 12
2）岩田俊二、中井加代子：地方中心都市の都市計画史に関する研究-津市を事例に-、地研年報、第 12 号、pp. 1-59、2007. 03
3）鶴田文史監修：図説　天草の歴史、郷土出版社、2007
4）山口敬太、田中倫季、川崎雅史：近代大津の「遊覧都市」建設と都市計画-湖岸埋立と湖岸逍遥道路整備を中心に-、土木学会論文集Ｄ２、Vol. 71、No. 1、pp. 39-54、2015
5）田中倫季、山口敬太、川崎雅史：昭和初期の大津市における湖岸埋立と街路網の形成-遊覧都市の形成をめぐって-、土木史研究講演集、Vol. 31、pp. 25-35、2011

＊1 熊本県立大学環境共生学部　Prefectural University of Kumamoto
＊2 熊本県立大学環境共生学部　教授・博士（工学）　Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.
＊3 熊本県立大学環境共生学部　助手・修士（工学）　Assistant, Prefectural University of Kumamoto M. Eng.